



作家たちの個性が光る作品が並ぶ「しがの風展」の会場＝大津市御陵町の市歴史博物館で

# 勢いある思い 絵画に

県内在住の絵画作家たちが力作を展示する「しがの風展」が二十三日、大津市御陵町の市歴史博物館で始まった。抽象画や人物画など幅広い表現の作品が会場を彩る。二十八日まで。

## 大津で「しがの風展」

「しがの風」は二〇一〇年に結成。風展は十一回目を数えた。今回はメンバー十八人が出品。油絵やアクリル画を中心に計四十五点が並び、作家たちの個性が光る。金沢吉孝さんの「白炎」は、炎の勢いをダイナミック

## 県内在住の作家 抽象画や人物画

に表現した油絵。大津市におの浜にあった西武大津店を鉛筆を使い、緻密に描いた森本玄さんの「陽当たりのよいテラスのある百貨店」なども目を引く。

代表の一居孝明さん(六五)は「新型コロナウイルス禍という時代に負けることなく、勢いある思いをキャンバスにぶつける作家たちの作品を楽しんでほしい」と話す。入場無料。午前九時～午後五時(最終日は午後四時まで)。(松田雄亮)

## 近江八幡の奥井総建に感謝状

沖島の自治会、散策道の橋改修で



架け替え工事を終えた橋を渡り初めをする奥井代表や自治会役員ら＝近江八幡市の沖島で

琵琶湖に浮かぶ近江八幡中の沖島で、水辺近くの散策道に架かる橋の老朽化が進み、改修工事に協力を続ける奥井総建(近江八幡市島町)に二十三日、自治会が感謝状を贈った。

沖島小学校から弁財天まで九百ほどの散策道の途

中には、くぼみや石積みなどで歩きにくい場所が点在する。それらの箇所が自治会が二十年ほど前から計八本の橋を整備したが近年、老朽化が目立ってきた。

市が資材の購入費を助成。二〇一九年度から奥井総建が無償で工事を担い、

二二年度までに計四本の橋を架け替えた。二二年度は沖島小に近い二本を改修。スロープ部分を含め全長は十二坪と四坪、幅は各一坪余で、建設用の足場の上に鉄板を固定して防腐加工した杉板を敷いた。転落防止用の手すりもつけた。二二年度で全八本の改修を終える見通しが立った。

現地でテープカットの後、自治会関係者らが渡り初めをした。奥井総建の奥井敦史代表(三七)は「地元企業として、島民や観光客に喜んでもらえればうれしい。島のため何でも協力すること約束した。改修済みの橋が長持ちするように、来年度以降も防腐剤を塗り直すなどの支援を続ける。森田正行自治会長(七三)は「お世話になってばかりで恐縮だが、これからもよろしく」と感謝した。(松瀬晴行)